# 第５回　あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

**東青地区：令和８年１０月１４日（水）県総合社会教育センター　　受講者１３名**
**上北地区：令和８年１０月２６日（月）三沢市国際交流教育センター　　受講者２０名**



## １　内　容

【講　義】「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」
講師　岩手大学　人文社会科学部
准教授　萩臺（はぎだい）　美紀（みき）　氏

【演　習】「あおもり親楽プログラムⅢ」
進行　県総合社会教育センター職員

【経　歴】
岩手大学人文社会科学部を卒業後、東北大学大学院教育学研究科博士課程を修了。在学中から臨床心理士として教育や医療の現場で相談活動に携わっている。

2020 年から５年間、柴田学園大学生活創生学部こども発達学科に勤務し、2025 年からは、岩手大学人文社会科学部准教授として、臨床心理学や家族心理学に関する授業、研究指導を行っている。研究活動では、不登校・ひきこもりの子どもを抱える家族に焦点をあて、問題解決に効果的な家族のコミュニケーションについて研究をしている。専門は、臨床心理学、家族心理学。

【講義要旨】

- 人間関係や心の問題は原因が曖昧で、それを取り除くことも難しい。問題や悩みの原因を追究するのではなく、親子の関係やコミュニケーションの循環に目を向け、支援することが大切である。
- 家族関係はコミュニケーションで成り立つ１つのまとまりであり、相互に影響を与え合っている。子どもの成長に合わせて、親子の距離や関わり方を変える等、家族内コミュニケーションの循環を変化させる必要がある。
- 健康的な家族の形とは、世代間の境界が明確である状態であり、縦の関係より横の関係が強いことが望ましく、夫婦の時間を作る、家庭内の重要なことを夫婦で決めるなどが大切である。また、各ライフステージでの発達課題を乗り越えることで家族は成長していくため、その都度、家族のルール変更や関係性の再構築が必要である。
- 子どもの問題や短所に意識が向き、関わり方が否定的になってしまうことがあるが、「人間は多面体」という意識をもち、問題だけでなく、うまくいっているときやお互いの良いところを見つけ、引き出していくことが大切である。

## ２　受講者の感想

- 子どもの問題行動が、親に気づきを与えてくれるものが多いということも、支援するにあたって重要なことだと気づかされました。
- 親子のコミュニケーションが大事だと感じつつ、余裕がなくなるとなかなかうまくいかないものなので、支援する側の目線では、話をよく聞き、共有してくれたことに感謝しながら、寄り添うことが大事だと感じました。
- 問題の中に解決があるという視点にハッとさせられました。保護者対応などにもその視点をもつことで、自分の気持ちも変化すると感じました。